

Si-report

Socio-Intelligence report



専修大学のビジョンと現状

Vol.2

2007



生田10号館(130年記念館) 2007年3月26日撮影 ※右は9号館(120年記念館)

改革の先頭に立って 局面を切り開き、 果敢に舵を取っていききたい

学校法人 専修大学理事長
専修大学長 法学博士

日高 義博

大学全入時代の到来が言われ、「大学が学生を選ぶ時代」から「学生が大学を選ぶ時代」へと変わりつつあります。大学が二極化していく中、ここ2、3年の間にどのような施策を講ずることができるかにより、本学の10年後の姿が決まります。さらなる発展を期すためには、2009年の創立130年までに、大学改革の成果を出す必要があると考えています。

専修大学長に就任してから一貫して、本学の21世紀ビジョンである「社会知性(Socio-Intelligence)の開発」の具体的推進と「学生を基本にすえた大学づくり」を念頭に、積極的な大学運営を行ってきました。大学教育によって学生に社会知性を身につけさせ、21世紀社会を支える有為な人材を輩出するとともに、大学の研究力によって社会のあるべき姿を「知の発信」として提示していこうとしています。

専修大学は現在、創立130年に向けてさまざまな記念事業を展開しています。生田校舎では、10号館(130年記念館)が完成し、4月から利用を開始しました。向ヶ丘遊園駅前にはサテライトキャンパスを開設することも決定しています。さらに、新学部設置構想もまともつつあります。

本学のキャンパスには、学生と教職員の活気と情熱が溢れています。今や座して物事を眺める時代ではありません。専修大学のさらなる飛躍を信じ、先頭に立って局面を切り開き、果敢に舵を取っていききたいと思います。

【Profile】1948年(昭和23年)宮崎県生まれ。70年(昭和45年)専修大学法学部卒業。75年(昭和50年)明治学院大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学。84年(昭和59年)専修大学法学部教授。2004年(平成16年)法科大学院教授。同年学長(現在に至る)。2006年(平成18年)理事長就任(現在に至る)。今村法律研究室長、法学部長、学外では司法試験考査委員、法制審議会臨時委員などを歴任。専攻は刑法学。法学博士。『不真正不作為犯の理論』(慶応通信)、『刑法における錯誤論の新展開』(成文堂)、『違法性の基礎理論』(イウス出版)など著書、論文、翻訳、エッセー多数。居合道5段。



建学の精神と21世紀ビジョン「社会知性の開発」

専修大学は、1880年(明治13年)、米国留学から帰国した4人の若者により創立されました。相馬永胤、田尻稲次郎、目賀田種太郎、駒井重格の創立者たちは、明治維新後、アメリカのコロンビア、エール、ハーバード、ラトガース大学にそれぞれ官費や藩費により留学し、米国の地で「専門教育によって日本の屋台骨を支える人材を育てよう。そのことが海外で長年勉強する機会を与えてもらった恩に報いることだ」と考えました。帰国後、経済学や法学を教授するため本学の前身である「専修学校」を創立しました。わが国があらゆる分野において新時代を担う人材を求めた時代にあつて、留学によって得た最新の知見を社会に還元し、母国日本の発展に寄与しようとしたのです。いち早く近代法の考え方をわが国に根付かせようとした本学は、五大法律学校の一つとして重要な役割を担いました。

以後、本学は関東大震災や戦禍などによっても極めて困難な状況に直面しながらも、学窓の灯火を守り続けてきました。21世紀に入った今日においては、私学全体にふりかかる大きな荒波を乗り越え、さらなる発展を遂げなければなりません。常に創立の原点に立ち返り、本学の進むべき指針を熟慮するとき、自ずと道は拓かれます。その指針として、本学は建学の精神である「社会に対する報恩奉仕」を現代的に捉え直した「社会知性(Socio-Intelligence)の開発」を21世紀ビジョンに据えました。社会知性の開発をどのように具現化するのかについては、各学部あるいは大学院の各研究科によって方法論も力点も自ずから異なりますが、各部署において積極的かつ真摯な取り組みがなされています。



相馬永胤
(そうま ながたね)



田尻稲次郎
(たじり いなじろう)



目賀田種太郎
(めがた たねたろう)



駒井重格
(こまい しげただ)

専修学校から専修大学法科大学院へ

専修大学の歴史は、明治13年に創立された専修学校に始まる。明治10年代には、専修学校を初めとして、明治法律学校(明大)、東京法学院(法大)、東京専門学校(早大)、英吉利法律学校(中大)が開校したが、これらは五大法律学校と称せられた。

本学の創立者たちは、法律学と経済学を初めて日本語で教授するという熱き思いを持って専修学校を創立した。その学風は、専修大学法科大学院にも色濃く継承されている。



第3回卒業記念写真(明治16年)



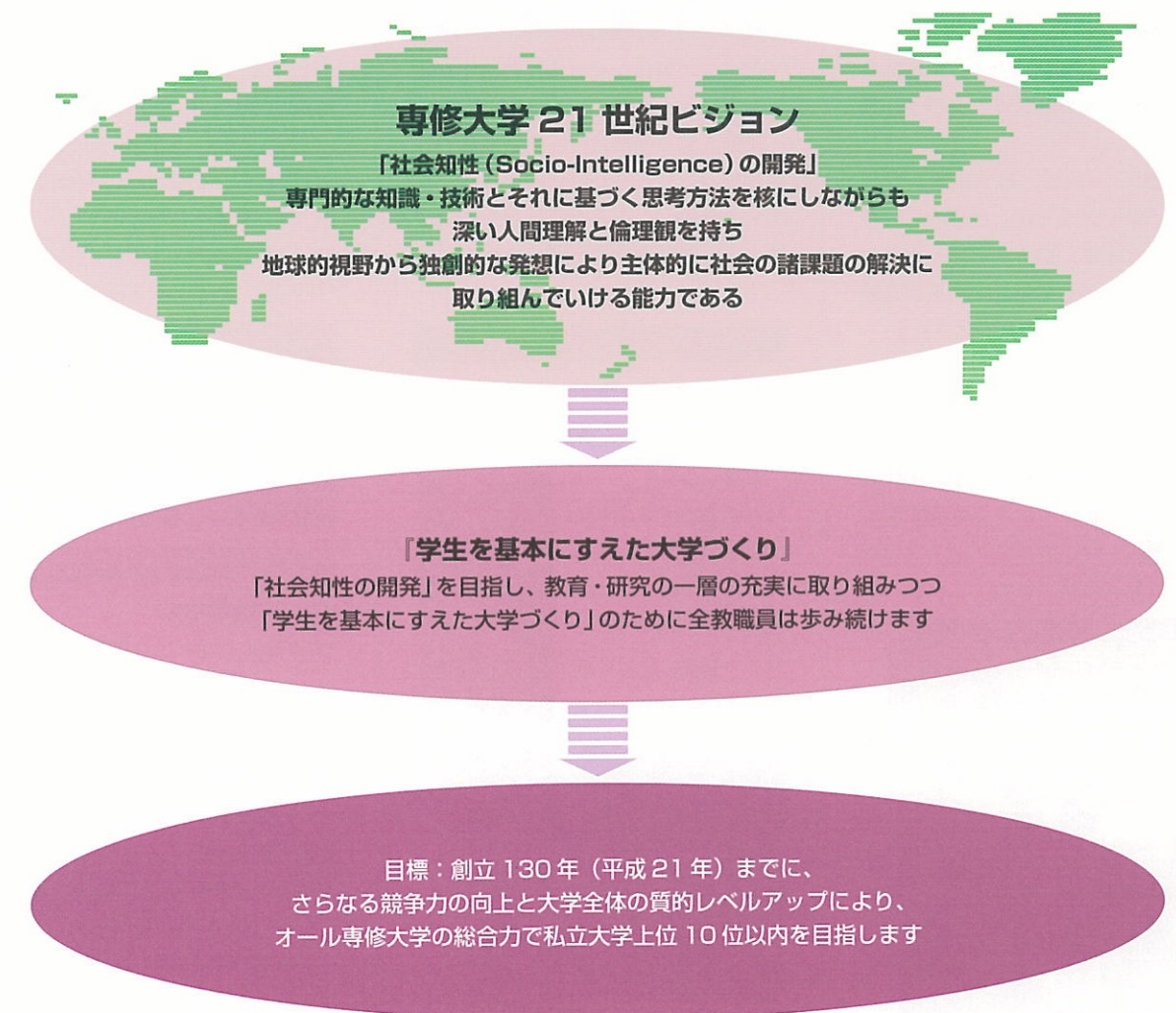
創立30周年記念講堂(左側)

神田校舎8号館(法科大学院棟)前に設置された碑文

専修大学21世紀ビジョン

21世紀の今日、グローバル化の拡大と異文化交流の進展、情報化の加速、少子高齢化の進行など、我々が取り組まなければならない課題が山積しています。これらの社会的課題を解決するためには、地球的視野から諸問題を捉える力、創造的発想力、さらには深い人間理解や倫理観が求められます。こうした新時代の社会で求められる知性こそ、「社会知性」

だと専修大学は考えます。それは、学生一人ひとりが自己実現に生かせる知であると同時に、「専修大学が創り育てる知」でもあります。21世紀において本学は、「社会知性(Socio-Intelligence)の開発」のビジョンのもと、「学生を基本にすえた大学づくり」を念頭に諸施策を推し進め、社会知性開発大学としての道を歩んでいくのです。



創立 130 年記念事業

2009 年 9 月、専修大学は創立 130 年を迎えます



「センディ」

2006 専修大学カップ

神奈川県学童軟式野球選手権大会開催

専修大学創立 130 年記念事業の一環である「2006 専修大学カップ神奈川県学童軟式野球選手権大会」が、2006 年 8 月 4 日から 7 日間にわたって平塚球場および県内各地の野球場で開催されました。

本大会は、「地域（神奈川県）の子供たちの健全育成支援」を目的に、神奈川県野球連盟と本学が主催したもので、大学による全県規模の学童軟式野球大会の主催は、県内初の試みです。

大会には、神奈川県内各地区代表の小学生軟式野球 54 チームが参加、トーナメント方式で神奈川県内の頂点をめざしました。決勝戦は横浜市金沢区代表「金沢スカイヤーズ」と川崎市宮前区代表「野川レッドパワーズ」の間で行われ、息詰まる投手戦の末、金沢スカ



イヤーズが劇的なサヨナラ勝ちで初代王者となりました。

決勝戦後の閉会式で、大会会長の日高学長は、「すがすがしい試合を見せていただき、元気もらいました。ますますの成長を期待しています」と述べました。

メモリアルボール (正義の女神像)設置

正義、衡平、公正等の法の理念を表象する「正義の女神像」Themis ~ Goddess of Justice」が神田校舎 8 号館（法科大学院棟）前に設置されました。



生田 10 号館(130 年記念館)完成!

収容人員約 5400 人、地下 1 階、地上 6 階建、延床面積約 2 万 1000 平方メートルの新校舎が完成しました。「知的創造の場」となるよう、情報コアゾーン、アカデミーモール、レストラン、ラウンジなど学生が自由に集うことのできる、ゆとりあるスペースが設けられています。また、ホール機能を持つ 600 人教室は音楽コンサートの開催も可能です。駅から最も近いキャンパスの入口として「新正門」の役割を担い、新たな「社会知性開発拠点」として活用されます。



向ヶ丘遊園駅前 サテライトキャンパス計画

小田急線向ヶ丘遊園駅前に新築されるビルディングの一部に、本学のもつ「地域貢献」の機能をさらに持続的に発展させ、多様な事業展開を行うための拠点として、『サテライトキャンパス』を設置します(平成 20 年度予定)。向ヶ丘遊園駅という地は、将来の総合インフォメーション、生涯学習、大学の成果発表などさまざまな事業を行ううえで優れたロケーションをもたらします。

学生を基本にすえた大学づくり

～専修大学生の活躍・キャリアデザインセンター～

地域密着型インターンシップ 納豆共同開発から商品化へ

キャリアデザインセンターの取り組みのひとつ「地域密着型インターンシップ」から、メーカーとの共同開発商品が生まれました。

2006 年度から川崎市と連携して企画されたこのインターンシップは、地域の団体や企業の抱える課題に学生が共に取り組むという、新しい形でスタートしました。初年度、6 つの課題の中から「地元食品メーカーの新商品開発・マーケティング戦略」にチャレンジし、商品化に至ったのは、経営学部池本正純教授のゼミナール生 8 人でした(当時 3 年次生)。

市内の納豆メーカー、(株)カジノヤからの課題は「納豆の冬季限定商品の開発」。「学生の斬新なアイデアが欲しい」という強い要望がありました。「みんなで何か大きなことをしたくて」と応じた 8 人は、まず納豆について理解するために工場見学を実行。「何にこだわりをもって作っているのかを知りたかった。見学をしたことで、香りに様々な工夫をしていることがわかりま



記者会見の席で。池本ゼミナールのメンバーたち。右は共同開発した「冬味納豆」

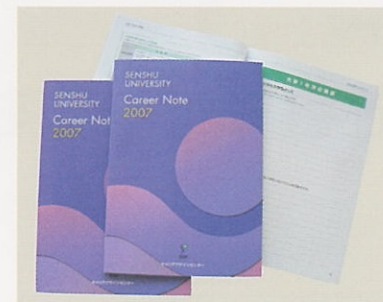
した」と竹村恵美さん。続いて、市場調査を実施。学生 200 人にアンケートを行い、その結果を元に、学食で約 100 種類の「たれ」候補を試作しました。

試行錯誤の末、絞り込んだのは「ピリ辛ねぎ味噌たれ」「白胡麻たれ」「あんこたれ」の 3 種類。「あんこには、カジノヤさんもびっくり。でも、これが意外においしいんです」と坪川明花さん。パッケージデザインは最終的に、絵の得意な西澤けいさんと青木弓美さんの案を提案することになり、練習を重ねて、カジノヤの経営幹部を前にプレゼンテーションを行いました。当日は、高柳美香准教授のゼミナール生も企画を提案。どちらの提案も甲乙つけ難いという中、最終的に選ばれたのは池本ゼミナールの「ピリ辛ねぎ味噌たれ」。「試食用のたれと納豆を用意し、実際に食べてもらったことが、評価に繋がったのかも」と坪川さん。パッケージデザインは、2 つのゼミナールの案を合わせた形で商品化されました。

冬季限定商品として店頭に並んだ「冬味納豆」。その包装紙には、「専修大学共同開発」の文字が。5 月の活動スタートから 12 月の商品化まで、メンバーの気持ちを一つに、自分たちの思いが形になるよう力を入れてきました。「みんなで取



り組む、この達成感は一生涯忘れられないですね」と池本ゼミナール代表の石田亘さんは力強く語ってくれました。



「キャリアノート」

専修大学 キャリアデザインセンター ※ 2005 (平成 17) 年 4 月発足

主な取り組み

- ◇『キャリアノート』
学生の“自分探し”をサポート
- ◇キャリアカウンセリング
- ◇インターンシップ
課題解決（地域密着）型
川崎インターンシップ制度 他
- ◇適性検査（有料）
…などのプログラムを展開
<http://www.acc.senshu-u.ac.jp/career>

キャリア支援科目を開講

専修大学では、キャリア支援を目的とした授業を開講しています。社会知性の基礎を成す論理的思考力トレーニングなどの内容を学びます。

- ◇教養特殊講義(入門編)
「キャリアデザインと社会知性の開発～自分探しのヒントを見つけよう～」
- ◇教養特殊講義(応用編)
「キャリア開発グループワーク～自己理解、仕事理解、スキル開発～」
- ◇経営学特殊講義
「キャリアデザイン」
(全学公開科目)

社会知性を育む教育

神奈川産学チャンレンジ プログラムで 優秀賞を獲得

「優秀賞が取れたのは、ゼミナール活動の成果です。仲間や先輩達の支えがあったからだと思っています」と、口を揃えるのは、商学部神原理教授のゼミナール生5人。

彼女たちが参加したのは、(社)神奈川経済同友会と神奈川県内の大学による産学連携事業であり、人材育成を目的とした「第3回神奈川産学チャレンジプログラム」。2006年12月に行われた表彰式で優秀賞を受賞しました。このプログラムは、同会会員企業が日常の経営課題の中から提示する実践的な研究テーマについて、学生が研究レポートの提出とプレゼンテーションを行い、その内容を競うものです。今回は、21社26テーマに対し、県内12大学134チーム(レポート提出115チーム)・466人が挑戦。優秀賞は11チーム



神原教授を囲んで、優秀賞の賞状を手にする山片チーム

でした。専修大学からは他にも5チームが努力賞を受賞しています。

チームを組んだ山片美幸さん、上沢春香さん、龍田早希さん、久保田彩乃さん、小島みどりさんら5人(受賞時3年次生)は、女性らしいブライダルへの興味から、(株)横浜ロイヤルパークホテルのテーマ「みなとみらい地区のホテルにおける顧客獲得戦略」を選択。「まず、競合他社やブライダルそのものに関する資料を集めました。実際にブライダルフェアに足を運んだり、マーケティングリサーチから始め、その後、アンケート調査を実施しました」と山片さん。消費社会における商品を社会・文化的側面から研究する神原ゼミナールではフィールドワークが中心。そこで鍛えたフットワークを活かし、東京のホテルも含め視察。約200枚のアンケート結果と合わせ、5人が着目したのは、「わずか2、3のフェアに参加するだけで式場を決める」という傾向でした。「フェアに特色を出して、まずは参加を促さなければ、ホテルの魅力は伝わらないと気付きました」とは龍田さん。その結果、「一般の人でもモデル体験ができる」など4種の企画を考案して、プレゼンテーションに臨みました。

勝因について、山片さん達は「足で調査したことが評価されたのでは。それができたのもゼミの教えがあったから」「事前に発表を聞いてくれた先生や先輩たちのアドバイスも大きい」とゼミナールの影響力について口を揃えて語ってくれました。「このゼミナールで成長することができました」と語る彼女たちの笑顔は自信に満ちていました。

「千代田カードプロジェクト」システム図



『千代田学』への挑戦 千代田カードプロジェクト

ネットワーク情報学部の卒業制作グループ(栗芝正臣講師指導)が『千代田学』に取組んだのは2006年4月。テーマは、「QRコード(2次元バーコード)を利用した街事典および歴史教育コンテンツの研究開発」。『千代田学』とは、千代田区が主催し、区内の大学等を対象に区に関する調査・研究を募る研究支援事業です。3年次のプロジェクトで取り組んできたテーマを、より発展させるために『千代田学』に参加、同時に4年次の卒業制作作品としてもスタートしました。

このプロジェクトは、フィールドワークを重視する栗芝講師のもと、上野を街歩きしたことがきっかけで誕生。「都市は目に見えるものだけでなく、歴史や文化が積み重なってできたもの。その歴史や文化を見せられないかとみんなで考えたのです」とは代表の大河ひろみさん(当時4年次生・2007年3月卒業)。名刺サイズのカードに東京駅などの歴史的建物や公園の現在を写し、QRコードを携帯電話に読み込ませることで、同じ場所の過去の情報が得られる仕組みです。子供たちの学習支援教材にしようというねらいもありました。『千代田学』への参加を機に、メンバーで区内を歩きQRコードを付与した61枚のカードを作成。大河さんは3年次でのプロジェクトとの違いを「千代田区から補助金を得て、学外の人に評価されることで、相応のものを作らなければと責任感が芽生えました」と話しています。『千代田学』は千代田区へ報告され、学生たちの成果が公表されることになります。

●国際交流センター

異なる価値観に触れて 日本人であることを意識

京 亮子さん
文学部人文学科哲学人間学専攻4年

高校卒業後、ワーキングホリデーでニュージーランドに滞在したことがあります。その時の、もっと英語力を伸ばしたい、滞在中にできた韓国人の友人と韓国語で話したい、といった思いから、大学の留学プログラムを利用しオーストラリアと韓国にそれぞれ短期語学留学をしました。

韓国の檀国大学へは夏期留学プログラムで8月に訪れました。8月15日の終戦記念日には、靖国参拝に反対するデモがあり、当初は日韓関係に緊張を感じました。しかし、学生たちと話してみると、日本に対する親近感を感じます。政治と個人の間にある温度差に、考えさせられました。

海外に出て、日本という国や自分が日本人であることをより意識するようになりました。家族や仲間など集団を重視する韓国と、個人を尊重するオーストラリアという2つの国で異なる価値観に触れ、「自分」を考えるようにもなりました。専攻が哲学人間学であることから、「考え方」といったことも興味があります。言語ひとつからもそ



左から2番目が京さん。
ベトナムと韓国の留学生とひなまつり

の国の考え方が見えるようです。「国」という概念を突き詰めたという思いも生まれました。

今は生田校舎にある国際研修館という寮で、交換留学生を住み込みでサポートするレジデントアシスタントをしています。楽しいけれど、時には異なる文化をもつ留学生同士のトラブルも。そんな時の対処法にも、留学時の経験が活かしています。

●国際交流センター

大好きなサッカーと スペイン語が結びついた

大西 英朗さん
法学部法律学科2007(平成19)年3月卒業
(日本水産株式会社就職)

第二外国語で学んだスペイン語を使ってみたくて、メキシコ留学を決意。2年次の春休みに短期留学したところ、想像以上に魅力的な国で、4年次には長期留学に踏み切りました。留学先では、現地のサッカー部に入部したことが転機でしたね。練習や大会遠征で、チームメイトと喜怒哀楽を共有するうちに信頼関係が深まったのです。大好きなサッカーとスペイン語が結びついたことで、急速に「生」のスペイン語を覚え、試合後に熱いサッカー談議もするようになりました。自分がチームの一員であると感じられるこの瞬間が最高でした。

メキシコで面白かったのは、物の考え方。日本では約束の時間を守ることが多いやりですが、向こうでは遅刻した人を怒らないことが思いやり。遅刻した人を怒っていると不思議がられてしまうんです。同じ「人を思いやる」という見解に対して、そ

メキシコのサッカー部の仲間たちと。
前から2列目、左から3番目が大西さん



のプロセスが異なっている。面白いと思うと同時にこの違いがどうしてなのか考えてしまいました。これは、法学部の勉強の中で様々な解釈を検討することを学んだからかもしれません。

語学ができるかどうかではなく、相手とどう接し何を話すかが大事。留学経験で感じ、実感したことです。

●エクステンションセンター

会計士講座からスタートし 公認会計士試験に現役合格

新井 聖一さん
商学部会計学科4年

公認会計士試験合格の目標を、高校時代に掲げました。進路指導の先生の勧めもあり、専修大学に入学。エクステンションセンターの会計士講座を1年次から受講し、3年次に現役合格を果たしました。会計士講座では、選抜生として大学と提携している資格取得予備校で勉強できる機会を得ることができました。そこでは、社会人や仕事を辞めて公認会計士試験一本に絞っている人が多く、モチベーションの向上につながりました。一番集中できる時間帯に、毎日欠かさず勉強し、苦手科目を得意科目に変えることを心掛けました。目標に向けて、力を入れることでできた3年間の大学生活は、自分にとって内容の濃いものでした。まだ在学中ですが、すでに監査法人で実務も経験しています。机上の勉強との差を感じますが、受験で得たのは知識だけではありません。与えられた課題に対して、自分で考える力を身に付けました。苦勞してでも、取得する価値のある資格だと実感しています。

知の発信のための研究開発

●都市政策研究センター

国際シンポジウムで 川崎市の新しい姿の創出を提言



社会知性開発研究センター／都市政策研究センターでは、文部科学省オープン・リサーチ・センター整備事業「イノベーション・クラスター形成に向けた川崎都市政策への提言」に取り組んでいます。その一環として、2006年11月、国際シンポジウム『「ラゾーナ川崎」のオープンと中

心市街地の活性化」を神田キャンパスで開催しました。

近年、郊外の発展にともなって進行する中心市街地の空洞化は、日本のみならず東アジアの都市に共通する問題です。シンポジウムでは、2006年9月に川崎駅前の工場跡地に建設された複合商業施設「ラゾーナ川崎」と川崎の活性化を中心テーマに、中心市街地の再生と活性化をグローバルな視点から検討しました。

はじめに商学部の関根孝教授が「中心市街地活性化の課題」、続いて三井不動産(株)の後藤敬信氏が「ラゾーナ川崎の開発コンセプト」について講演。この後、中国・中商商業経済研究中心の于淑華氏による「北京市中心市街地の新しい動き」、韓国流通物流振興院の白寅秀氏による「ソウル市中心市街地の新しい動き」、



三井物産戦略研究所の小村智宏氏による「中心市街地活性化とニュービジネス」の講演が行われました。パネルディスカッションでは、経済学部・黒田彰三教授をコーディネーターに、講演者に経済学部・平尾光司教授を加え、川崎市の再開発、魅力ある市街地づくりなどについて討論を行いました。

シンポジウムの模様は、川崎市産業振興会館、生田キャンパスにも同時中継され、3会場で約180人が参加しました。

●法科大学院

知的財産に精通した 法曹養成のための画期的教材開発



本学法科大学院では、「知的財産に関する先端的映像教材の開発」プロジェクトが、2004年度に文部科学省「法科大学院等専門職大学院形成支援プログラム(教育高度化推進プログラム)」に採択さ

れ、これまで研究開発に取り組んできましたが、2007年3月、3年間に及ぶ実施期間を終えました。

本プロジェクトでは、著作権法、特許法、意匠法、商標法、不正競争防止法、ライセンス契約、知的財産を巡る国際紛争、IT関連、企業法務の9つの分野について、内外の専門家の協力を得ながら、教育内容・方法の開発と充実に取り組み、先端的な映像技術を駆使した教材を開発。中央大学法科大学院および鹿児島大学法科大学院が参画し、本学法科大学院が中核となってプロジェクトを推進してきました。

プロジェクト推進責任者である本学法

科大学院・齋藤博教授は、

「画期的なプロジェクトで、他の先進国にも例を見ません。知的財産に精通した法曹の養成が急務とされる中で、こうした映像教材への期待は非常に大きいものがあります。高画質の映像を収録、編集する作業を進め、このたび完成に至りました」と、その成果に大きな自信を示しています。



社会知性の開発を担う人材の輩出

面を取った時の 爽快感が好きだから

梅山義隆さん

(株)NTT東日本-東京中央勤務
1998(平成10)年経済学部卒業

現在、NTT東日本で、法人約20社を受け持ち、光回線やパソコン等の営業をしています。その傍ら、会社の剣道部で稽古を続け、2006年には、8年ぶりに東京都予選でベスト4となり、全日本選手権に出場することができました。また、剣道部主将となり、全日本実業団大会2連覇にも貢献することができ、飛躍の年となりました。3年前から、週末には専修大学

剣道部のコーチとして、後輩の指導にあたっています。私が剣道を始めたのは幼稚園時代から。今でも続けているのは、面を取った時の爽快感が好きだからです。集中することで、雑念を払えますね。

専修大学に入った当初は教員になりたくて、学部の授業に加えて教員免許に必要なカリキュラムも履修していました。他の学生より授業も多く、更に剣道部の練習もみっちりあり、とても忙しい日々でした。しかし、剣道が好きだからこそ、その生活をつらいと感じたことはありませんでした。今も、仕事との両立は大変です。練習時間が限られるので、仕事では剣道を忘れ業務に集中し、逆に剣道では仕事を忘れ



ることに気を配ります。実業団で続けているためには、人並み以上に仕事をする努力が必要だと思っています。

学生時代の夢は、剣道で専修大学を日本一にすることでした。それはかないませんでした。これからは後輩に夢を託し、日本一に向けて育成に励みたいと思っています。大学時代の人との出会い、そして人に負けない何かを見つけること。今の学生たちには伝えたいですね。

本と読者 顧客の喜びは我が喜び

乙津宜男さん

(株)紀伊國屋書店代表取締役社長
1964(昭和39)年経済学部卒業

紀伊國屋書店は、出版物の売り上げトップをいく日本を代表する大型書店です。同書店の4代目社長が、2006年11月に就任したばかりの乙津宜男さん。

1964年、東京・新宿本店が新築されたばかりの同書店に入社。以来貫いてきたモットーは「お客様の喜びは自身の喜び」。仕入れ部門が長く、「出版社の営業とも顧客と同様の気持ちで大切に接してきました」。同書店は「書店は劇場である。本が俳優、社員は演出家、お客様は観客」と「文化としての書店」を唱えています。

乙津社長は個性ある書店作りへ「豊富な品揃え、感動を呼ぶ接客対応は基本」とした上で「棚は常に手を入れ「耕す」ことが大切」と強調します。「本はどこで買っても同じ。競合店との差別化には、書店が個性を持つことです」。

日本国内の主要都市や米国、豪州、アジアなどの海外にも大型店舗を展開、その数は80店を超えました。世界的建築家ケイ・ニー・タンによる斬新な店舗設計で今後、新潟、前橋、流山おおたかの森、ららぽーと横浜の各店が続々と誕生します。「地方文化の活性化は、私たち書店の大きな役割です。本と読者との“出会いの場”を作り、地元読者の要望に応える店作りを進めています」

故郷は大分県日田市。「相撲や野球が好きな『ガキ大将』でしたが、家に帰れば、

それこそ、むさぼるように本を読んでいた」。専大時代も常に本が傍にあったという乙津さん。「本を読まなければ知識や教養も、知恵も身につけません。本は人間精神の産物ですから」。若い世代に、こうメッセージを送っています。



今後の取り組み

- 創立130年記念事業の多方面での展開
- 新学部・新学科設置に向けて検討中
- キャリア教育の充実(キャリアノート、キャリア支援科目の展開など)
- 学生支援体制の充実(『知のツールボックス』発行、留学の推進など)
- 高等学校との連携(高大連携)の促進
- 社会とのネットワークづくりの推進(千代田区、川崎市・多摩区など地域との連携他)
- 社会知性開発研究センターの活動拡大
- 向ヶ丘遊園駅前サテライトキャンパスの設置(平成20年度予定)
- 「SI新書」の創刊

「Si-report」とは

「Si」とは……

「社会知性：Socio-Intelligence」の頭文字 [S][I]

と

「SENSHU Intelligence」の頭文字 [S][I]

を表現しています。

専修大学の社会知性をレポートしていきます。

シンボルマーク&カラー



Sの字は専修大学の「S」と21世紀ビジョン「社会知性(Socio-Intelligence)の開発」の「S」であり、そのSのブルーと曲線は大海原を表します。それが、地球に見立てた緑の球体を包み込んでいる様は、専修大学で「社会知性」を育んだ人材が世界に輩出され、大海原のように激しく変化する国際社会の波に乗り、世界で活躍する様を表現しています。また、地球を表す球体は、大学のスクールカラーを使用しています。

ペットマーク



名前は
「センディ」です

体育会のキャラクターとして使用されているデザインをもとに、より多くの人に愛されるよう更にかわいくデフォルメしました。獅子の顔と鳳凰の羽を配したこのデザインは、若者たちに、無限の可能性を持つ未来へ力強く羽ばたいて欲しいという思いが込められています。

専修大学のシンボルマーク&カラー・ペットマークは2005(平成17)年9月に制定されました。

専修大学 学長室企画課

(神田校舎) 〒101-8425 東京都千代田区神田神保町3-8

(生田校舎) 〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1

Tel:044-911-1252 Fax:044-900-7803

<http://www.senshu-u.ac.jp/>